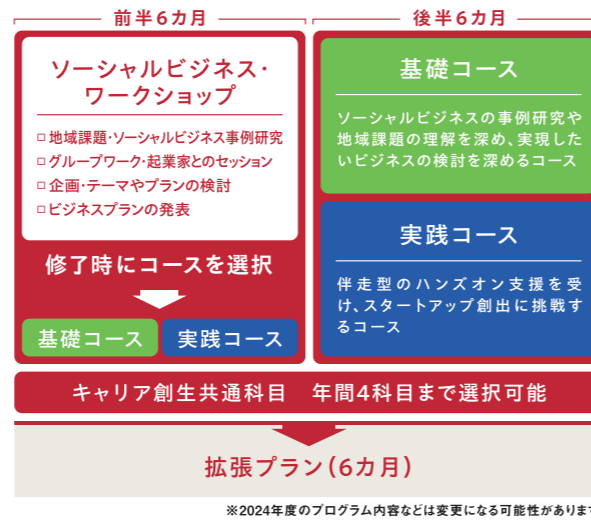


ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラム

地域のため、身近な人のために何かを始めたいという意欲のある人が、地域社会のためのスモールビジネスを実現できるよう育成する、実践型の起業家育成プログラムです。このプログラムを受講した人が、地域の魅力づくりや課題の解決に向けたビジネスを始めることで、兵庫・神戸の活性化につながることをめざしています。ビジネスの立ち上げに必要な知識・思考力を習得し、ビジネスの実現に向けて専門家チームの助言が受けられます。

- 受講期間 1年間(2024年9月17日~2025年9月16日)(予定)
- 定員 20名

■ 2023年度プログラム(参考)



金融リテラシー教育プログラム

<2024年度秋 プレ開講予定>

昨今、個々人が経済的に安心して有意義な人生を送るためには、自らの家計金融資産を適切に管理し、賢明な投資や借入れの判断を下す必要性が高まっています。本プログラムは、金融ビジネスとは一線を画した高等教育機関である大学において中立的な立場から、金融環境を取り巻くさまざまな制度や仕組み、デジタル技術の進化によって複雑化する金融サービスや金融商品について正しく理解するための金融教育を提供します。

- 受講期間 半年間(2024年9月17日~2025年3月31日)(予定)
- 定員 30名(予定)



MESSAGE 受講生の声 豊かな家族関係づくりは大切な自己探究の一つ



リカレント教育センターアンバサダー 三宅隆宏さん (541営卒)

「人生100年時代の学びプログラム」の「大人の自己探求コース」を受講して2年目です。新しい自分を見つけ出し、次の新しい目的を決めるこの課題に日々頭を悩ませています。新しい自分を見つけるにはまず自己開示が必要不可欠と学びました。すべてをさらけ出し自分自身を掘り下げる。「格好」重視で生きてきた私にはなかなか難しい課題です。2年目の最近、やっとできてきたかなと感じます。現在、本音で語り合う機会を家族内で試みています。コーディネーターの西川耕平教授から提案され、毎夕食時にテレビを消して10~20分ほど家内で語ることを10か月ほど続けています。次は娘家族と考え、まず娘と2人だけの時間をつくろうと試みますが、今までそんなことがなかったので警戒され(?)なかなか応じてくれません。これからは本番です。豊かで健全な家族関係をつくり上げるため、アプローチを続けます。ぜひみなさんも新しい学びや環境にチャレンジしてみませんか。

問い合わせ

甲南大学 社会連携機構 リカレント教育センター TEL 078-435-2598 (直通) E-MAIL recurrent@adm.konan-u.ac.jp 平日 9:00~17:00

今だからわかる学びの楽しさ、 いくつになっても成長できる喜び リカレント教育プログラム

学びを通じてより豊かな人生を送るために、甲南大学では社会人の学びなおしのためのリカレント教育を実施しています。多様なニーズに対応すべく、スキルアップやキャリアアップにつながる学習プログラムや、充実した人生を送る一助となるような学習プログラムを開講。一定の成績を収めてプログラムを修了した方には「履修証明書」を発行しています。

「履修証明書」を発行する履修証明プログラム*

各プログラムは履修証明プログラムとして実施します。一定の成績を収めてプログラムを修了した方に「履修証明書」を交付します。

※履修証明プログラムとは、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、主に社会人を対象とした一定のまとまりのある学習プログラムです。その修了者に対しては、学校教育法に基づく履修証明書を交付します。

2024年度開講のプログラム

人生100年時代の学びプログラム

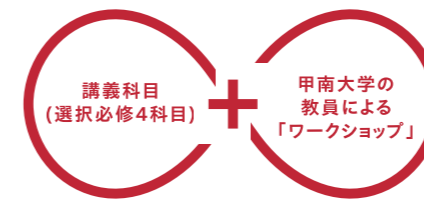
※2024年度の募集は終了しています。

充実した豊かな人生を送るための5つのコースを開講。各コースのテーマに関連する科目を選択し、大学の授業を学生たちと一緒に受講します。ワークショップも実施し、大学のゼミのように所属コースの担当教員や仲間と話し合いながら学びを深めていただきます。

■ 5つのコースから1コースを選択

分野	コーステーマ	コーディネーター
人文科学系	大人の自己探求	教授 西川 耕平
社会科学系	ネクスト・キャリアをどう生きるか	教授 古田 清和*
多文化・国際系	多文化共生、グローバル社会で生きる	准教授 小西 幸男
心理学系	ライフサイクルの心理学	特任教授 宮川 貴美子
社会言語系	自分自身のことばを見つめ直す	名誉教授 都染 直也

- 受講期間 1年間(2024年4月1日~2025年3月31日) ※職名は2023年度時点
- 定員 100名(各コース20名)



グローバルリテラシー教育プログラム

※2024年度の募集は終了しています。

さまざまな国の人々と文化的多様性を尊重しながら調和・共生していく際に備えておきたい相互理解や価値創造力、社会貢献意識などの素養や思考力を深めることをめざすプログラムです。また、考察したことを英語でまとめて説明・発表するトレーニングも含めたカリキュラムを用意しています。

- 受講期間 1年間(2024年4月1日~2025年3月31日)
- 定員 20名

(2024年度受講スケジュール)	4月	7月8月	9月	1月2月	3月
言語講座 [土曜開講]		90分×10回	90分×10回		
リカレント教育科目 [土曜開講]		リカレント特設科目 90分×15コマ		リカレントワークショップ 90分×15コマ	

※本プログラム履修生は、言語講座の一般受講者より優先されます。(言語講座を必ず受講できる。)

日程によっては2コマ連続で実施することがあります。



障がいのあるなしに関係なく お互いに支え合い ともに生きる社会をつくりたい

もりざね かなえ
森實 香苗さん

2023年4月からソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラムを受講中。拡張プラン「スタートアップ創出プログラム」も出願予定。

*取材は2023年12月のものです。



まつい ゆりか
松井 有里加さん

2022年9月から1年間、ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラムを受講。修了後の現在は、拡張プラン「スタートアップ創出プログラム」を受講中。

*取材は2023年12月のものです。

「ママたちをサポートしたい」 自分自身を振り返りながら ビジネスプランをかたちにしていく

プログラムの受講によって、より強く意識するようになったのが、それまで漠然としていた「ママたちのサポートをしたい」という思い。実現したいビジネスプランをまとめるにあたり、グループワークや研究発表などを通して、自分の考えを突き詰めていく機会が何度もありました。育児中は仕事との両立が大変で、ホッとできる時間がほしかったこと。子育ては身体が資本と痛感して、育休中にヨガトレインストラクターの資格を取得したこと。当時の自分を振り返り、考えをまとめて「ママたちがいつでも立ち寄ることのできる場をつくりたい」と中間発表でプレゼンテーションしました。受講生には、お子さんのいる男性や起業した大学生などさまざまな立場の人がいて、自分では思いもよらない視点の意見をいただけます。おかげで「一人でやろうとせず、誰かの力を借りてはどうか」「どんな場所ならママたちがホッとできるか」など、実現に向けてより具体的に考えるようになりました。

拡張プランを受講する中で 実現へと動き始めたビジネスプラン アドバイスを得て念願のイベント開催へ

私のように身内が近くにいないなど、ママたちは頼る先の少ない中で、いつも気を張っています。ママ同士が集まって悩みを共有できるような、ホッとくつるげ

会社勤めをしていたころ、二度の出産を経験された松井さん。配偶者は単身赴任中で、頼れる身内も近くにおらず、ワンオペ育児の日々が続き、気がつけば子育てを楽しむどころか負担に感じることも増え、「このまま会社勤めをしながら育児を続けていいのか」と思うように。「同じように孤独で辛い思いをしているママたちをサポートできれば」「住んでいる地域で仕事ができたら」と考えていたころ、出合ったのが本プログラムでした。

る会を開きたいと考えました。プランは明確になったものの、実現するために何から手をつければ良いのかわかりません。拡張プランには講師と2対1で相談する時間があり、アドバイスをいただいたことが参考になりました。市の窓口を教えていただき、すぐに向かうと開催場所の提供や助成の仕組みなどを知ることができました。そして昨年秋、「身体と心をととのえて安心して子育てをスタートできるお手伝い」を目的に、同じ志をもったママ友と「このうフェス」を開催。産休中に取得したヨガトレインストラクターの資格を生かした体を整える運動や、キッチンの収納術をプログラムに盛り込み、温かい手作りのランチを食べながら、参加者のママたちと子育ての悩みなどゆつくり語り合いました。

「起業だけがゴールではない」 自分が何を問題としているか、 どのように解決していくかが大切

受講当初は「ビジネスとして稼ぐ仕組みをつくらなくては」と肩に力が入っていました。しかし先生が常々おっしゃっていたのは「起業だけがゴールではないということ。生活の中で自分自身が何を問題としてとらえているのか、どう解決していくのかを考えることが大切だと教わりました。受講することで、自分が何を感じ、どんな社会を実現させたいのかを徹底的に考え、自分と向き合う時間をもてたことが貴重であり、人生の棚卸しになったと思います。これからの自分が進むべき明確な目標ができたことで、人生がさらに楽しくなりました。

本学の卒業生である森實さんが受講を思い立ったきっかけは、「Konan Today No.2」に掲載された本プログラムの紹介記事でした。森實さんの息子さんは難病による知的障がいがあり、地域の中学校が特別支援学校のどちらへ進学するか、またその先の将来にある就労についても考えていたころだったといいます。夫婦で「いつか障がいのある人もない人も一緒に働ける場をつくれたら」と話していたこともあり、本プログラムの受講が障がい者のための働く場づくりに役立つのでは、と出願を決められたそうです。

必要とする人に情報が届いていない 問題としっかり向き合い、 取り組むことで見えてきた課題

20年間、三児の子育てに専念してきた私は、正直なところ、起業なんて自分にはできるだろうかと不安もありました。しかし、開講式で石川路子先生(プログラムコーディネーター)の「起業は夢の実現のための手段の一つ」「本当にしたいことは何かを考えることが大事」ということばに背中を押され、挑戦してみることに。「障がい者が働ける場づくり」を考えようと思ったのは、就労の面で障がい者には壁があり、経済的な面で不安を感じたからです。障がいがあってもやりがいを感じて働きたいと考える人が、それぞれ特性を生かして働ける場を作ることを目標にプログラムを受講し、情報収集も行いました。すると私を知っていた以上に、障がい者就労についてさまざまな取り組みがされているとわかりました。障がい者の家族であっても知らなかった情報がたくさんあり、必要とする人に情報がどれだけ届いているのか、障がいのある人が自立生活を送るうえでの課題として感じました。「情報を必要としている人へ届けたい」「たくさんの人に助けられてきたからこそ、今度は誰かの役に立ちたい」と、考えるようになりました。

障がいのあるなしは関係なく すべての人に共通する「食」を通して がんばる人を応援したい

障がいのあるなしは制度上区分されており、障がい

のある人は守られ、支援されています。しかし、障がいがあるからといって支援されるばかりではなく、環境や状況によっては、個々の特性を生かしてできることもたくさんあります。それなら環境や状況のほうを変えていくことで、障がいのあるなしに関係なく、みんなが支え合って生きることができないのではないのでしょうか。そんな思いから、次第に私はいまはがんばる人みんなを応援したい、と考えるようになりました。今、すべての人に共通する「食」を通じた活動で、誰もが特性や個性を生かして働くことができ、かつ情報交換もできるような場をつくれなかと考えています。受講によって自分の考えを整理し、実際にビジネスプランを立てた経験が、今後プラスとなつてくると思います。

受講は家族にとってもプラスに 夫や息子の世界を広げ 私の学びたい意欲も深まりました

受講によって家族にも良い影響がありました。物流関係の仕事に従事している夫は、人手不足の解決策として開発を進めるロボット機器を、誰でも簡単に操作できる仕様にする中で障がい者雇用につなげようと動き始めました。私が受講生の方から教わった「L1ブック」は、知的障がい者や日本語が得意でない方など誰にとっても読みやすい本で、息子の読書の幅を広げてくれました。私自身、誰でも読む権利、知る権利があると改めて痛感し、受講生の方と一緒にグループでL1ブックを広めるイベントを企画中です。もっと学びたいと意欲が湧き、修了後は拡張プランも出願するつもりです。